

福島での人材育成と復興への貢献

県内の若い人材が自らの力で事業を起こし復興に貢献していく。
子どもたちがその姿に憧れ、自分も事業を起こせるようになると挑戦する。
この憧れの連鎖によって福島は復興し、地元に対する新たな誇りが生まれる。

2014年7月29日
一般社団法人 福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会
代表理事 半谷 栄寿

Uターン・ヨソモノとしての半谷

53年 小高町(南相馬市小高区)の出身
小学生のころ、町長だった祖父と福島第一原子力の建設現場を見学

78年 東京大学法学部卒業

ソーシャル

78年 東京電力入社

ビジネス

91年 環境NPOオフィス町内会を設立
1000事業所の古紙を共同回収
(枝廣淳子さんと交流)

94年 Jヴィレッジを企画・建設・経営

06年 「森の町内会」活動(森林の間伐)を開始
(東芝など400団体がCSRとして参加)

00年 電力自由化とともに、新規事業を推進
自家発サービス事業から介護事業まで
(三菱商事と協働、ヨークベニマルに電力供給)

10年 キッザニアに林業体験パビリオンを出展

10年6月 東京電力の執行役員を退任
尾瀬林業の代表取締役常務に就任

10年10月 父が他界 Uターンを決意
「森の町内会」を福島に創ろう

11年1月 尾瀬林業役員辞任を申し出・了解

2011年3月11日 東日本大震災

3月~5月 南相馬に支援物資を2tトラックで持参

6月 自然エネルギーの体験学習による人材育成の仕組みを志す

2013年3月11日 南相馬ソーラー・アグリパークを完成、人材育成を開始

「南相馬ソーラー・アグリパーク」事業の官民一体の推進（2012年1月、協働開始）

自然エネルギーの体験学習による人材育成

福島復興ソーラー(株)による太陽光発電所の建設

- 2011年9月 会社設立（半谷、キッサニア、伊藤冷機、各500万円）
- 2012年5月 資金確保（東芝CSR出資1億円、農水省補助金0.9億円）

2012年12月 開発協議を終了し、同時に着工。

2013年 3月 南相馬ソーラー・アグリパークが完成。

2013年 4月 福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会
体験学習を開始

復興を担う地元人材の育成

植物工場による風評被害払拭と農業再生

南相馬市による植物工場の建設

2012年 5月 資金確保（復興交付金1.15億円）

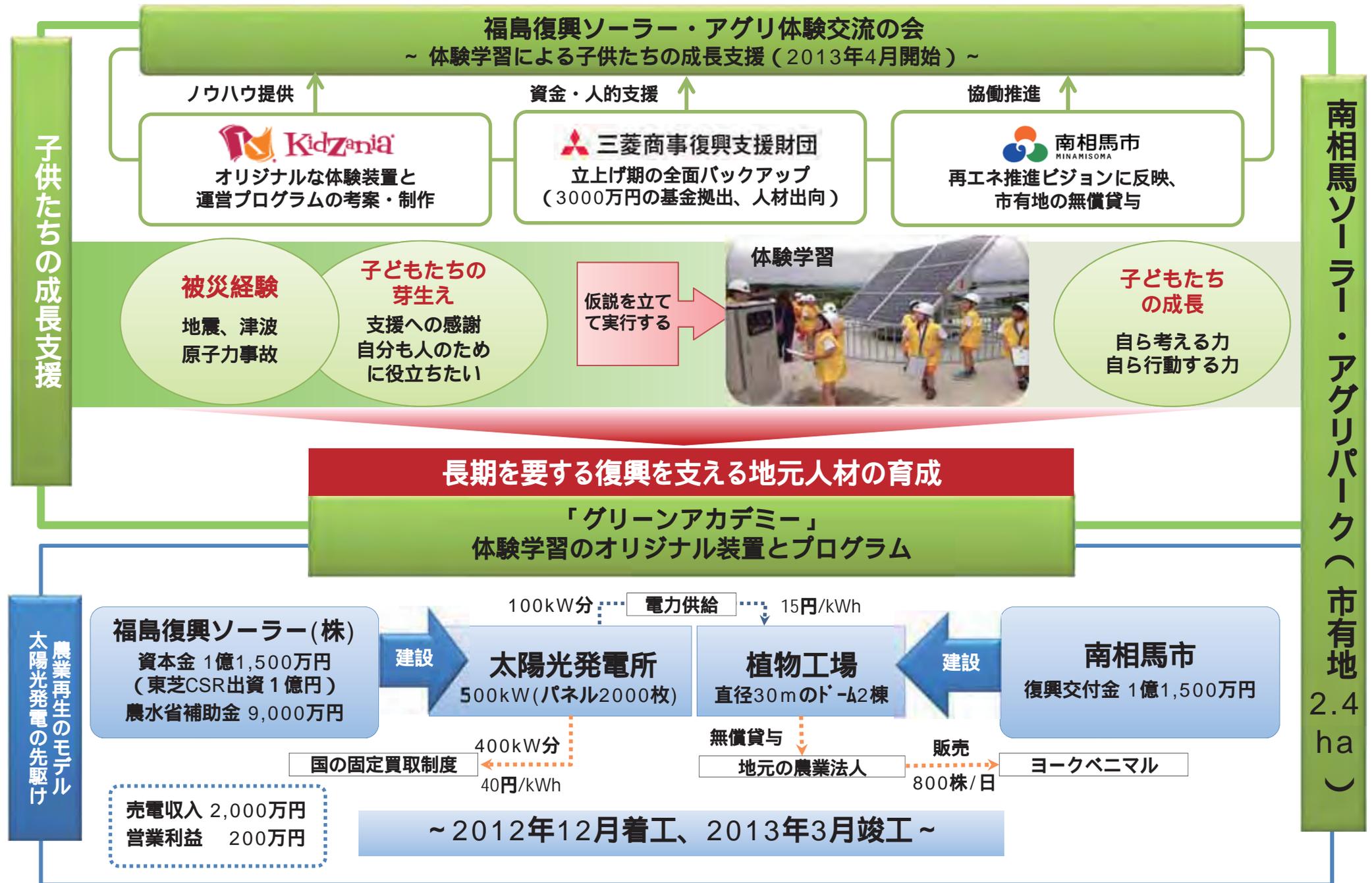
8月 津波被災農地を市有地化。

9月 農地転用の手続き。

2013年 3月 地元農業法人が生産を開始。

ヨークベニマルへの全量出荷

南相馬ソーラー・アグリパークの全体像



グリーンアカデミーの体験学習

学校の授業と連携して実施（南相馬市の小中学生3300名のうち1年間で800名以上が体験）

身近な道具を使った「エネルギーに気づく」導入の実験



水車を回す水の力と自分の力を比較する体験



植物工場を見学し、「最先端の農業」に触れる体験も



本物の太陽光発電所の中を「巡視点検」する体験



電気自動車から電気を給電し「賢く使う」ことも体験



体験を「ワークショップ方式」で振り返り(ディスカッション)



パネルの方角と角度を自由に動かして「発電研究」の体験



直径10mの福島県MAPを歩いて再エネ拠点を回遊



「自分の考え」をしっかりとまとめて、わかりやすくプレゼン



2014・7・27

再エネと地域

「主権」育てる好機に

朝日新聞と一橋大学が共同で実施したアンケートで、回答した全国の自治体の8割が再生可能エネルギーの推進に意欲的で、地域振興に役立てようとしていることがわかった。

福島第一原発の事故から3年以上。発電の方法を見直す動きから、地域を自分たちの手で再構築する試みへと深化しつつある様子がうかがえる。

例えば、電力会社に電気を売って得た収益を福祉施設の運営に回したり、発電設備を維持し保守する会社をつくって雇用創出につなげたり。地域で資金を募って設立する市民共同型の発電所も増え、500を超え勢いだ。

いずれ電力が自由化されれば、電力会社や電源を選んで電気を買えるようになる。そんな将来をにらんで、農業や漁業、林業の生産者が遠隔地の消費者

とつながり、直売する地場産品の中に、電気も組み込もうという構想も生まれている。

経済活動の枠組みには収まりきらない動きも現れている。

原発被災地となった福島県南相馬市では、太陽光発電所とそこでできた電力を使った植物工場を運営しながら、子どもたちが体験学習できる場がある。

代表理事の半谷栄寿さんは地元出身で東京電力の元役員。事故の反省から事業を起した。目標とするのは電気の仕組みや活用法の学習を通じて「自分で考え行動する」人材を育てることだという。

これまでの電源開発は「つくる人」と「使う人」が分かちがちだった。とりわけ原発は、大量に電力を消費する都会向けにつくられてきた。立地条件も限られ、恩恵を受ける「地元」も一部にとどまった。

地域振興にしても、これまでは大企業を誘致したり補助金でハコモノをつくらたりという他力本願型。その面でも原発誘致は典型だった。

確かに、安定的な電力供給という面では、再生可能エネルギーに技術的な課題は残る。固定価格での買い取り制度も、電源の開発費用が下がらないと料金負担が大きくなる欠点がある。

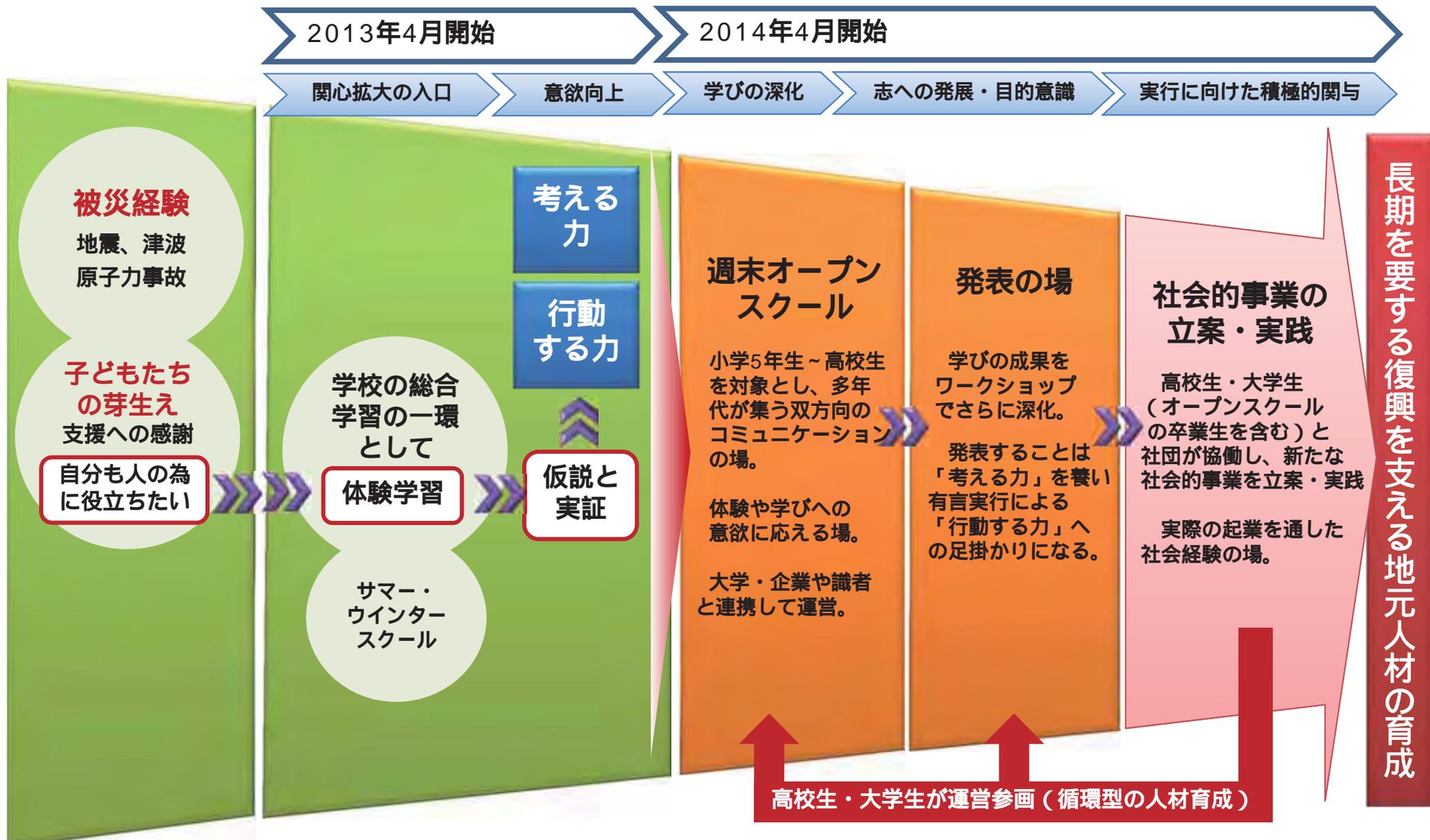
それでも、地域に普通にある資源をいかす再生可能エネルギーは、従来の発電を転換させて、地域に「主権」を育むきっかけになる。

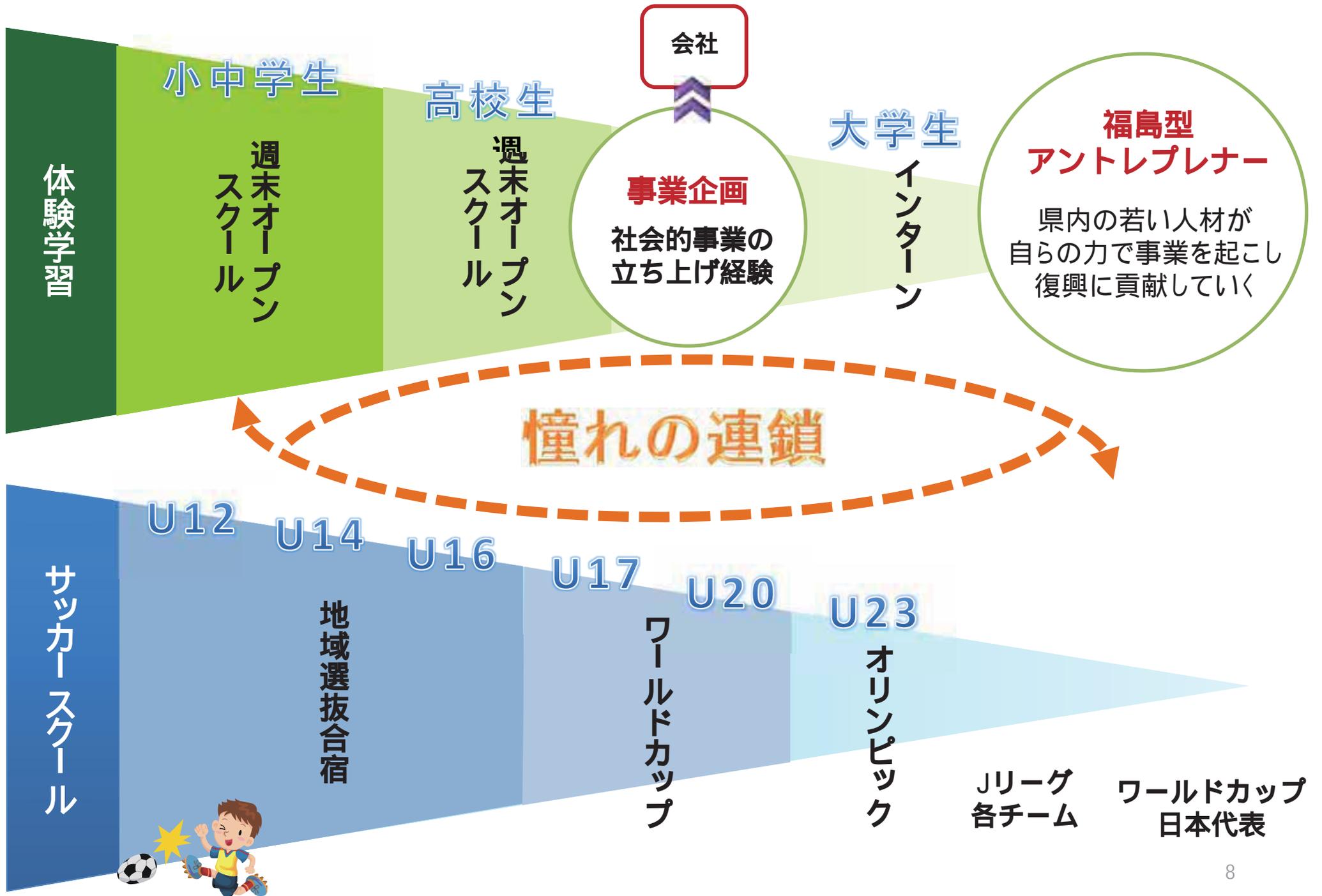
自分たちで事業を進めれば難題や意見の相違にもぶつかるといえる。乗り越え、いかに納得するか。小さな民主主義の実践が積み重なる。

自分たちの町や生活と関連づけてエネルギーをとらえる機運を歓迎したい。

人材育成の発展プロセス

自然エネルギーの体験学習により、子どもたちの「自ら考え行動する力」を育みます。新たに週末スクールを大学や企業と連携して立上げ、より意欲のある子どもたちの成長を継続的に支援します。「自ら考え行動する力」を育むためには、「自ら発表する力」を養うことも重要であり、子どもたちに発表の場を提供します。高校生や大学生は、社会的事業の起業経験を通して、復興を担い得る人材として成長します。





「構想力」「対話力」「人を巻き込む力」を育て、あなたの夢を実現させよう

世界的環境ジャーナリスト・枝廣淳子さんと考える 高校生のためのオープンスクール

勉強するのも大学へ進学するのも、自分の人生をよりよく生きる力、よりよい社会を創っていく力を養うためです。ここでは、環境やエネルギー、福祉や教育など、新しい事業を企画して発表する、高校生のための実践的なスクールです。
高校生の今だからこそ役に立つ、進路や将来について真剣に考えるスクールを体験してください。



磨こう、構想力！

磨こう、プレゼン力！

磨こう、巻き込む力！

スクールは全4回・参加費は無料です！（ランチ付）

第1回・5/24(土)
8:30～17:00
南相馬ソーラー・アグリパーク
(8:30 福島駅より送迎バス出発)

志を明確にする
自分が何をやりたいのか、
志を明確にしよう

第2回・6/28(土)
10:00～16:00
福島テルサ
(福島駅東口徒歩10分)

志をカタチにする
志をビジネスの形にしよう

第3回・7/13(日)
10:00～16:00
郡山市労働福祉会館
(ホテルハイツ裏)

継続的な仕組にする
強みを工夫し、志を継続できる
仕組みをつくらう

第4回・8/17(日)
10:00～16:00
A・O・Z(アオウゼ)
(福島駅東口徒歩10分)

賛同者を募る
練り上げた事業計画を
発表し合おう

環境やエネルギー、福祉や教育など、新しい事業を企画して発表する、高校生のための実践的なスクール



2014年(平成26年)5月25日(日曜日)

福 島 民 報

本県復興担う人材育成 9人、構想力など学ぶ

高校生オープンスクール 始まる

南相馬



自分の目標、ビジョンについて語る高校生ら

本県の復興を担う人材を育成する「高校生オープンスクール」が二十四日、南相馬市の南相馬ソーラー・アグリパークで始まった。福島、安積の二校から九人が参加。年間を通じた講座で世界的環境ジャーナリストの枝広淳子さん、アグリパーク代表の半谷栄寿さんから構想力、対話力、組織作りなどを学ぶ。

同施設では半谷さんが代表理事を務める福島復興ソーラー・アグリ体験の会が、太陽光など再生可能エネルギーに関する講座を開いている。さらに具体的な将来の福島県を支える人材を育てようと、高校生が将来、社会的な事業を実現するのに必要な能力を養える講座を設けた。

初回のテーマは「志を明確にする」。高校生は最初に「やりたいことは決まっている。達成に何が大切なのか考えたい」「自分は流されやすい。自分をよく知ってビジョンを作りたい」などと講座への期待を語った。

枝広さんは自身の体験などから、大きな目標、ビジョンを作る大切さ、実現に向けて手続の変更を恐れる必要のないことなどを説明。「ビジョンはポイントを考えても生まれやすい。書くこと、誰かと

自分の目標、ビジョンについて語る高校生ら

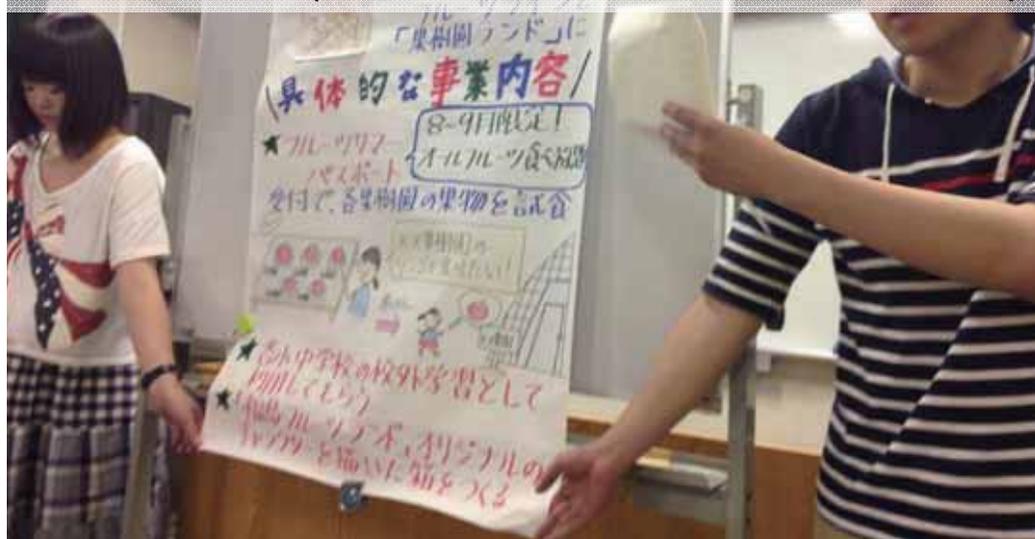
話すことで自分の考えが形になってくる」と話した。福島高三年の小林恵菜さんは「やりたいこともあり、AO入試で大学に入りたいと思っている。ここでみんなとよく話して目標をもっと具体的にしたい」と話した。

講座は六月二十八日(福島市)、七月十三日(郡山市)、八月十七日(福島市)に「継続的

な仕組み作り」などをテーマに開く予定。途中からも参加できる。半谷さんは「小さくても自分たちで事業を生むことが、次の世代に誇りを伝えることになる。南相馬市からも参加してほしい」と期待している。

問い合わせは体験交流の会東京事務所 電話03(3456)0407。

**福島大学と連携した復興社会事業論
ワークショップ(2013年4月20日～7月11日)**



**桜の聖母短期大学のインターン生による提案
(2013年9月2日～6日)**



2013年4月、地元の新卒が社団に入社



2013年10月、三菱商事から若手出向



若手の社会人が当社団で経営経験

福島への復興に貢献 + 社会人としてキャリアパス

社団法人の事業性の確立 受益者負担の導入-

人材育成を長期的に継続するため、現在大きな割合を占める寄附に加えて、企業研修の受入れや、他の体験施設からの運営業務受託など、受益者負担割合を拡大し、事業継続性を確立します。

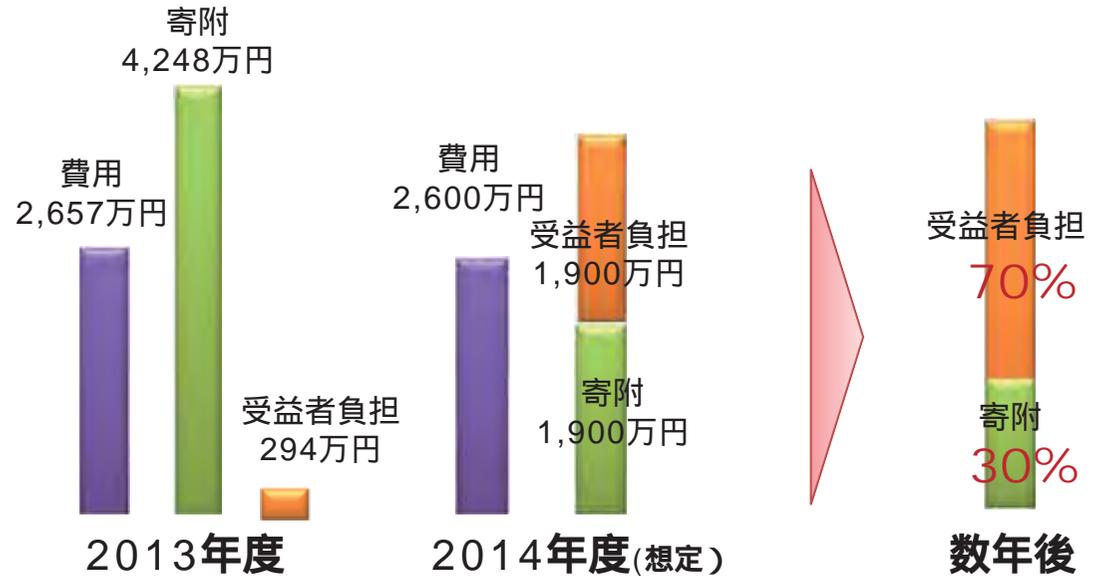
○ 事業継続性の確立

【基金・寄附・助成金】

三菱財団、日本財団、ジャパンソサエティ、東日本大震災財団、東芝、ヨークベニマル、三井住友海上、三菱自動車、大成建設、グローバルエンジニアリング、台湾佛光山、グレイス、KDDI、三菱製紙、もりぞう、市瀬、東電労働組合、日本興亜損保 など

【補助金】

経済産業省、南相馬市



○ 受益者負担メニュー

企業研修の受け入れ 復興のケーススタディ



体験施設の運営受託 運営ノウハウの商品化



大人の見学・体験 料金の設定



教育旅行の受け入れ 旅行会社と連携

